

2025年度 ぐりーん行動計画

2024年度報告

事業計画予算 2530万円目標に対し 実績 2724万7348円 達成率 107%

月	開設日数		利用人数			利用平均	保育料・事業費	内訳			活動費	延長保育料 (レスパイト)	レスパイト 件数	昼食代 その他	事務 手数料	合計
	月 開所日数	乳幼児 開所日数	放デイ 利用人数	乳幼児 利用人数	延利 用数			放デイ	児発	保訪						
4月	21日	12日	122人	42人	164人	7.8人	2,082,198	1,420,258	661,940		24,600	2,400	3件	9,500	81,000	2,274,062
5月	21日	14日	124人	41人	165人	7.9人	2,110,164	1,460,735	649,429		24,750	0	0件	9,250	0	2,169,306
6月	21日	12日	135人	43人	178人	8.5人	2,305,529	1,585,896	695,228	24,405	26,700	800	1件	8,500	9,000	2,350,529
7月	22日	13日	143人	43人	186人	8.5人	2,410,551	1,685,373	702,506	22,672	27,900	0	0件	8,750	3,000	2,450,201
8月	18日	11日	110人	38人	148人	8.2人	1,908,513	1,295,124	613,389		22,200	0	0件	6,500	0	1,937,213
9月	20日	12日	142人	44人	186人	9.3人	2,232,380	1,555,364	677,016		27,900	1,600	2件	9,500	3,000	2,274,380
10月	23日	14日	147人	51人	198人	8.6人	2,400,854	1,598,685	781,800	20,369	27,150	1,600	2件	10,750		2,440,354
11月	22日	13日	142人	50人	192人	8.7人	2,321,277	1,550,167	771,110		28,800	800	1件	8,750	9,000	2,368,627
12月	19日	12日	129人	43人	172人	9.1人	2,130,785	1,426,681	661,633	42,471	25,800	0	0件	7,750	0	2,164,335
1月	19日	12日	135人	49人	184人	9.7人	2,290,695	1,492,544	753,947	44,204	27,600	0	0件	9,250	3,000	2,330,545
2月	20日	13日	126人	48人	174人	8.7人	2,135,445	1,384,822	682,025	68,598	26,100		0件	9,250	0	2,170,795
3月	21日	12日	127人	49人	176人	8.4人	2,282,101	1,472,979	787,020	22,102	26,400	0	0件	8,500	0	2,317,001
合計	247日	150日	1582人	541人	2123人	8.6人	26,610,492	17,928,628	8,437,043	244,821	315,900	7,200	9件	106,250	108,000	27,247,348

児童発達支援事業

児発の利用児を増やす

個人に合わせた支援を提供する

ライフステージを意識した支援を提供する

保育園との連携を強化する



児発利用児 4月登録9名 3月登録13名 達成
→2023年度延べ利用421人→2024年度541人

アセスメントの結果に基づく支援計画の作成、
支援実施を行った

年長向け親子学習会(2回)

年長卒所遠足・登校練習(傘さし歩行等)

園との情報交換 訪問、来訪で全員実施

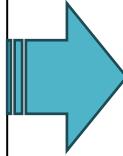
放課後等デイサービス

自立的に学習に向える時間を作る

利用児が満足感・肯定感が得られるプログラム設定

学校との情報共有

来年度までに2~3割程度卒業



・曜日ごと、利用児毎のプログラムを作成し、実施

・放デイ利用平均 2023年度5.64人
2024年度6.4人 113%にup
※個別支援はほぼ100%

・利用平均のUPは、支援への満足感によるものと評価、100%達成とする

学校との情報交換 訪問、電話含め全員実施

支援終了による卒業 10名(計算対象31名からの比0.32)3割達成

2025年度 行動計画

児童発達支援事業

週3回(水・木・金)

在籍 12名(うち3名新規、1名個別からの移行)

4月に入ってからも見学の問い合わせあり

ニーズが高く、今後も新規の依頼も見込められると思われる。

低年齢(年少以下)の利用も増えている。

→専門性の高いぐりーん独自の支援を続ける必要がある。

新入職員も専門的視点を持って支援をできる必要がある。

学習支援

週5回(火～土)

在籍 31名(うち新規 7名)

4月に入ってから、電話での問い合わせ多数あり。

→ニーズが高く、今後も新規の依頼の可能性は高いが、定員に空きがないため、新規の受け入れはニーズの高い利用者に絞る。

昨年度より定着率も高く、振り替え利用や追加利用に前向きな利用者が多い。

小1から高2と年齢層も幅広く、個々に合わせた課題を設定する必要がある。

今年度中学2年生の利用者が6名おり、来年度の進学に向けて取り組む必要がある。

個別支援

在籍：1名

- 全体の定員に空きがないため、積極的な受け入れは難しい状況。
- 依頼があれば、本当に支援が必要な利用者に絞っていく。
- 個別支援が担当できる職員が限られてしまうため、今後人材育成が必要。

保育所等訪問

登録: 2名(新規1名)

→ぐりーんを利用している利用者のうち、必要性の高い方を中心に利用していただいている。

長期間ではなく、目標が達成したら一旦終了とし、必要時のみの利用としている。

今年度より訪問員が1名になってしまったため、積極的な受け入れが難しい状況。

2025年 利用予定

(1日平均10名)

	火	水	木	金	土
9:30～12:30		☆児童発達 5人	☆児童発達 4人	☆児童発達 3人	
15:20～16:00	☆個別支援 1人				
14:30～16:00 ⁴		☆学習支援 1人	☆学習支援 1人		☆学習支援 10:00～11:30 7人
16:00～17:30	☆学習支援 8人	☆学習支援 5人	☆学習支援 4人	☆学習支援 7人	☆学習支援 14:30～16:00 4人
合計	9人	11人	9人	10人	11人

2025年度目標達成金額

26,000,000円

平均 7.7人

現時点で登録平均:10人 利用平均: 9.0人以上をキープできている

現在の利用率を維持すれば、目標額は達成する見込み

2025年度の事業運営の柱

利用率の維持と同時に昨年度よりも

満足度の高い、質の高いサービスの提供をする。

目標1: ライフステージに合った支援を行う

(児童発達支援事業)

- ・年長児向けの個別課題、登校を意識した歩行練習等を行う。
今年度も、卒所遠足を開催予定。
- ・年少児向けに、感覚統合の要素のある目的を持った設定遊びを行う。
- ・PECSやスケジュール等のコミュニケーションや視覚支援の練習を行う。

(学習支援 中学生)

高校進学や仕事などにつながる支援をする

- ・集団で実行機能のワークを行う。
グループで話し合いや発表の機会を作る。(土曜日)
 - ・学習の計画(テスト勉強・長期休み含む)を自分で立案する。
 - ・専修学校や高校の体験入学に参加する企画を行う。
-
- ・生活スキル(お金・時間・身の回りのこと)に関わる課題を準備する。将来の生活・仕事の力がつくようにする。

(学習支援 小学生)

グループ活動の充実を図る

火→コグトレ体操・ビジョントレーニング(小4、小2)

水→コグトレ体操・運動(小2)

木→国or算 ミニ授業(小5)

金→実行機能のワーク・ゲーム(小5)、

 工作・コグトレ体操(小1)

夏休み特別企画を行う

夏休みの前半の計2回(1回30分程度)行う。
普段できない、実験や工作など(内容は検討中)

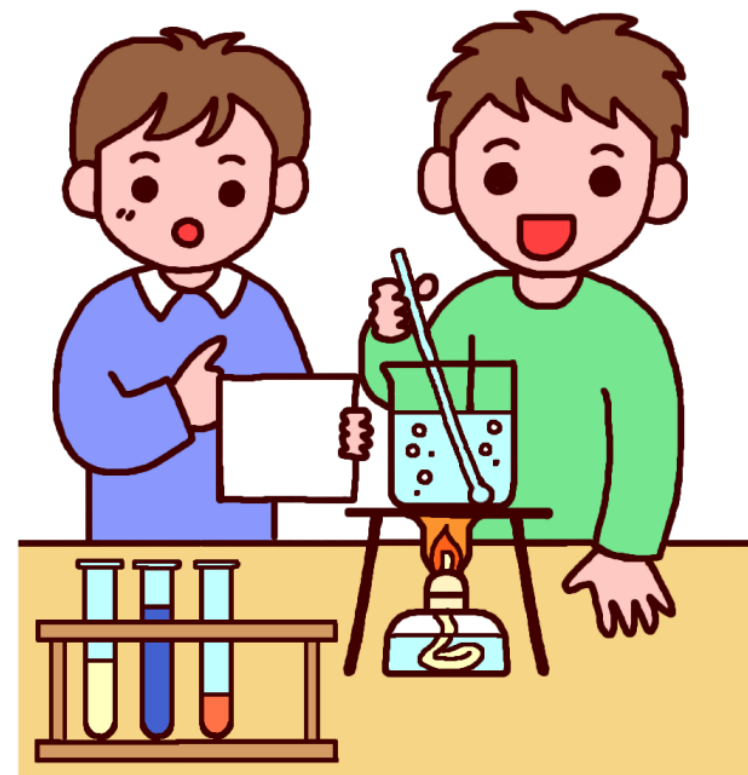
火(小4, 5) → 杉浦

木(小5) → 阿部

土(中学生) → 湯田

低学年 → 保住

☆活動の様子を写真などでご家族に報告をする



目標2: 学習支援利用者全員に STRA-Rを行う

アセスメントに基づく支援をするために...

(学習支援)

・WAVES(ビジョンアセスメント) ・DCDアセスメント(運動機能)

・ウラウス、STRA-R(読み書きアセスメント)・KABC-IIなど

(児童発達支援)

・TASP ・DCDアセスメント(運動機能)など

☆STRA-Rの研修を5月5日に大田・保住が受講予定。

その後、他職員(阿部)にも伝達し3人が検査者となる。

☆STRA-Rの結果を後期の計画に反映させ、アセスメントに基づく支援ができるようにする。

目標3: 学校・園などとの連携の強化 必要な利用者全員の情報共有を行う

- ・訪問をして情報共有をする
(新規利用者、新入学・入園・転園した利用者を中心に)
 - ・夏休みまでに必要な利用者全員の学校・園に電話で情報共有する
- 学校・園と目標を共有し、協力できる体制(役割分担の明確化)をつくる
- 必要であれば、相談員と連携し保育所等訪問につなげる
- 関係機関連携加算(Ⅰ又はⅡ)を算定する

目標4: スタッフのスキルアップ

今年度、2名(正職1名・パート1名)入職。

①研修を実施

4月...自閉症障害特性、発達の基本

5月...感覚統合

7月...構造化の基本、高次化理論の基本 など

②話し合いの時間を設ける

児発...第3木曜日(活動内容の話し合い)

学習支援...第2火曜日(活動内容(グループ活動)や個別で共有したいことの話し合い)

→わからないことを解消し、自信をもって支援できるようにする

支援力の向上を 図る



大田・榊原・保住が支援の時間中に学校や園に訪問ができる環境をつくる。

目標5: 発信する機会を増やし、ご家族にぐりーんの支援を知ってもらう機会を作る

- ・学習会の開催

 - 学習支援(小学生向け)...6月頃開催

 - 児童発達支援(年少児)...8月開催

- ・通信の定期発行(3カ月に1回)

- ・活動内容を写真でお知らせする(児発のみ 月1回)

- ・自立で来所する利用児の保護者に定期的に電話やメールで報告をする。(1カ月に1回)

目標6: 職員の満足感の向上を図る

☆事業所報告の話し合いを実施。アイデアや希望がたくさん出た。

例えば...

- ・わからないことばかりなので、たくさん学びたい。
研修を受けたい。話し合う時間が欲しい、参加したい。
- ・写真で活動の様子を伝えたい。(児発)
- ・子どもたちが楽しめる活動を企画したい。
(児発の活動内容、学習支援の夏休み企画)
- ・高校進学に向け体験入学等に参加する企画をしたい。



自分たちが主体的に行動し実現できることが職員の満足感につながるのではないか